

令和元年度 専攻科食物栄養専攻

自己点検・評価報告書

令和2年3月

富山短期大学 専攻科食物栄養専攻

令和元年度 専攻科食物栄養専攻 自己点検報告書

1. 建学の精神 (他部局で記載のため省略)

2. 地域・社会貢献

1) 現状

- ①下記の活動を実施して地域・社会に貢献している。
 - ・公開特別講演会を毎年1回開催し、県内栄養士および管理栄養士等の実践力向上に貢献
 - ・多くの専任教員が、県内市町村主催の研修会等の講師として協力
＜根拠資料＞本学 HP 上の富山短期大学地域連携活動年報
- ②教員と学生が協力して食育活動を行うなど、積極的に地域社会に貢献している。
＜根拠資料＞活動記録は、本学 HP 上のブログに掲載

(2) 課題

- ①公開特別講演会では、変化していく現場の栄養士および管理栄養士の要望を的確に把握し、テーマに反映していくことが求められている。
- ②学生が負担なく地域貢献活動に参加することができる仕組みを考える必要がある。

(3) 次年度の実施計画

- ①県内市町村主催の研修会等の講師を可能なかぎり引き受ける。
- ②公開特別講演会では、近年注目されているタンパク質およびアミノ酸の摂取に関わる内容で、9月に実施する。
- ③学生が負担なく地域貢献活動に参加することができる仕組みを考える。

3. 教育目標

(1) 現状

- ①専攻科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 132～133
- ②専攻科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し、学内外に表明している。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 132～133
- ③毎年5月前後に卒業生の就職先を訪問して、卒業生の様子を確認するとともに保育現場が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、教育目的及び目標が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。＜根拠資料＞就職支援センターで訪問記録を集約保管

(2) 課題

- ①教育目的及び目標において、建学の精神の全体を表現しているかが分かりにくくなっている。建学の精神との関係性が明瞭になるような、表現に変える必要がある。
- ②教育目的及び目標に関し、ステークホルダーから理解を得るための取り組みを確立する。

- ③教育目的及び目標に関し、人材養成の目的の中に含めて学生が認識できるように努める。

(3) 次年度の実施計画

- ①入学時オリエンテーションで、学生への教育目的・目標の周知を継続して図る。
- ②科内会議で時間を確保して、教育目的及び目標の表現の改善に努める。

4. 学習成果

(1) 現状

- ①学習成果を、建学の精神および専攻科の教育目的・目標に基づき定めている。＜根拠資料＞学生生活のしおりP132～133
- ②学習成果を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し、学内外に表明している。＜根拠資料＞学生生活のしおりP132～133
- ③各科目における学習成果は、Webシラバスシステムにおいて学修成果別評価基準(ルーブリック)」として学内に示している。同様の内容をホームページにおいて学外に表明している。＜根拠資料＞Webシラバス
- ④学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。(Webシラバスに記載)また、Webシラバスシステムを利用して、学生に毎時間及び各期末に「授業アンケート」を実施し、学生による学習成果の自己評価を数値化して、授業改善に生かしている。＜根拠資料＞Webシラバス

(2) 課題

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。
- ②Webシラバスシステムにより様々な情報が分析できる反面、情報量が多くなり分析に時間を要するようになった。
- ③学習成果をさらに明確なものにする。一層、具体的で、一定期間内で獲得可能、測定可能なものにするように努めることが必要である。
- ④学習成果の獲得を評価・判定する仕組みを定める。さらには、評価・判定した結果をフィードバックする仕組みを定めることが必要である。

(3) 次年度の実施計画

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」で良いと思われる記載事例を積極的に紹介し、改善につなげる。
- ②Webシラバスシステムを短時間で有効活用できる方策を検討する。
- ③学習成果が、定量的または定性的な根拠に基づき評価できるものとなるよう検討する。

5. 三つの方針

(1) 現状

- ①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「学生募集要項」に記載して、内外に表明している。＜根拠資料＞学生生活のしおりP132～133

②毎年度末に学科会議で議論し、見直しを図っている。＜根拠資料＞学生生活のしおりP132～133

③3つの方針を踏まえた教育的活動を行っており、各年度の前期末及び後期末に、「授業アンケート」（教務部で管理）や「履修カルテ」（学科事務室で管理）の記入を学生に求めて、「3つの方針」の達成状況を確認している。＜根拠資料＞Webシラバス

(2) 課題

①授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

②3つの指針は、ほぼ完成形であり、理想的ともいえる。しかし、3つの方針に沿った人材を育成することは容易ではない。毎年、教職員一丸となった教育体制を敷いて教育に当たっている。

③管理栄養士の社会的ニーズは高まっているが、ニーズが多様化・専門化しており、社会的ニーズに対応できる管理栄養士の育成に、毎年教職員の多大なるエネルギーが要求されている。

(3) 今年度の実施計画

①教務部と協議してアンケートの方法を見直し、回答率が上がる方策を考える。

②地域で活躍できる管理栄養士の育成のために、三つの方針に沿った教育を実施する。

6. 内部質保証

(1) 現状

①学内の自己点検・評価委員会と連動して、内部質保証に取り組んでいる。＜根拠資料＞自己点検・評価報告書

②Webシラバスシステムを導入して、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。＜根拠資料＞Webシラバス

③毎年度末に、専攻科の活動を科内会議で総括して「自己点検・評価報告書」を作成している。＜根拠資料＞自己点検・評価報告書

④毎年度末に、すべての専攻科の専任教職員および非常勤講師において「教育課程懇談会」を実施し、専攻科の教育課程について検討している。＜根拠資料＞教育課程懇談会議事録

④外部評価委員会の場で自己点検・評価活動を報告し、高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。＜根拠資料＞事務部で外部評価委員会資料を保管

⑤報告書では現状・課題を踏まえて次年度への改善計画も記しており、積極的に改革改善に活用している。＜根拠資料＞自己点検・評価報告書

(2) 課題

①時間に追われて毎時の授業アンケートができないこともある。日常的な自己点検・評価の方法を工夫する必要がある。

②今回から、自己点検・評価報告書の形式を変えることになった。点検項目をしぼり、記載内容の充実を図ることが課題である。

- ③建学の精神、教育目的・目標、学習成果、三つの方針、内部質保証の項目に関しては、「内部質保証ルーブリック」で、さらに上のレベルを目指す。
- ④全専任教員で、教育の質保証を図る査定の仕組みを構築する。

(3) 次年度の実施計画

- ①日常的な自己点検・評価の方法を学ぶ機会をつくる。
- ②年度末に今年度の振り返りを行い、より充実した自己点検・評価報告書作成に反映していく。

7. 教育の質

(1) 現状

- ①Webシラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、学習成果を可視化し査定する手法を取り入れている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ②毎年、成績の分布や授業アンケートの結果を分析して、「教育課程改善レポート」を作成し、査定の手法を点検するとともに、教育の質向上に活用している。＜根拠資料＞教育課程改善レポートは教務部で集約保管
- ③FD研修会における授業改善報告会の実施や、授業改善事例集の作成を通して、教育の向上・充実に努めている。＜根拠資料＞教務部でFD研修会を管理
- ④教務部を通じて関係法令の変更等をメールや回覧で確認しており、法令を遵守している。＜根拠資料＞教務部で集約管理

(2) 課題

- ①授業アンケート結果をみると、学習成果に関わる自己評価・満足度が低い科目もある。アンケート結果を踏まえての授業改善が望まれる。
- ②科目を変更した際でも、変更前の科目の積み上げてきた「教育課程改善レポート」の内容を参考にする必要がある。

(3) 次年度の実施計画

- ①各教員に授業アンケートの結果を踏まえての具体的な改善策を求め、授業アンケートでの満足度の向上をめざす。
- ②次々年度から、教育課程の一部を変更する予定であるため、変更前の科目のこれまでの授業改善の取り組みを後継科目の実施の参考にする。

8. 学位授与方針

(1) 現状

- ①学科の卒業認定の方針を定めている。＜根拠資料＞学生生活のしおりP134～137
- ②学科の卒業認定は、学科の学習成果に対応しており、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も明確に示している。＜根拠資料＞学生生活のしおりP138～139
- ③学位取得（学士（栄養学））は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による審

査を受けるように指導している。試験方法は、入学オリエンテーションの際に同機構発行「新しい学士への道」を配布して詳しく説明している。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 1 3 9

- ③毎年5月に卒業生の就職先を訪問して、卒業生の様子を確認するとともに学生の就職先が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、学科の卒業認定方針が地域社会のニーズにマッチしているかを点検している。＜根拠資料＞就職支援センターで訪問記録を集約保管
- ④本科生は、毎年、ほぼ全員が管理栄養士を目指しており、管理栄養士国家試験の受験資格を学生のしおり（P139）に掲載し、入学オリエンテーションの際に具体的な流れを詳しく説明している。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 1 3 9

（2）課題

- ①専攻科教員は食物栄養学科に属しており、業務量が多く、効率的な教育・組織運営に苦難している。
- ②ここ数年、学生の多様化への対応に苦慮している。

（3）次年度の実施計画

- ①毎年、大学の業務・行事が増えており、教育・研究の時間が十分にとれていない状況にある。大学運営部と交渉して、職務環境の改善に努めたい。

9. 教育課程編成・実施の方針

（1）現状

- ①専攻科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 1 3 2～1 4 5
- ②専攻科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 1 3 4～1 3 7
- ③専攻科の教育課程およびその担当教員は、短期大学設置基準にのっとった編成、実施体制になっており、独立行政法人大学評価・学位授与機構の認定を受けている。シラバスには必要な項目をすべて網羅し、学修成果別評価基準（ルーブリック）の記載も整備している。＜根拠資料＞Webシラバス
- ④教育課程の見直しについては、科内会議で定期的に行うとともに、年度末に「教育課程懇談会」を開催して、非常勤講師からも意見を聴取している。＜根拠資料＞教育課程懇談会議事録

（2）課題

- ①独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める認定専攻科として再認定を受けるための教育課程の編成及び教育体制を維持する必要がある。
- ②独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める特例が適用される認定専攻科として認定を受けるための教育課程の編成及び教育体制を整える。

（3）次年度の実施計画

- ①独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める特例が適用される認定専攻科の申請を

行い、専攻科の教育課程編成・実施状況を客観的に判断する。

10. 幅広く深い教養

(1) 現状

- ①短期大学設置基準にのっとり、専門科目以外に関連科目を編成し、実施体制も確立している。また独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める認定専攻科の要件を満たし、認定を受けている。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 134～137
- ②「教育課程編成図」を作成して、関連科目と専門科目の関連性を明確にしている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ③関連科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。＜根拠資料＞Webシラバス

(2) 課題

- ①現在開講中の関連科目の分野に偏りがある。

(3) 次年度の実施計画

- ①関連科目の一部において科目名の変更を行う予定である。

11. 職業教育

(1) 現状

- ①Webシラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、職業教育の効果を評価し、改善に取り組んでいる。＜根拠資料＞Webシラバス
- ②「栄養士総合特別演習」授業科目において、臨地実習が円滑に運営され、実習の目的を各自が達成できるよう意識を高め、スキルを向上させるための指導を行っている。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 144
- ③臨地実習報告会終了後に、実習先の指導者の方との「実習懇談会」を設け、実習における様子や管理栄養士に必要な資質能力についての意見交換をし、授業の見直しを図っている。＜根拠資料＞懇談会開催の記録

(2) 課題

- ①専門職就職率はほぼ 100 パーセントに近いが、何人かは一般職に就職する。

(3) 次年度の実施計画

- ①担任と特別研究指導者、就職委員及び就職支援センターで連携をとり、就職に不安を抱える学生への指導を充実させる。

12. 入学者受入れ方針

(1) 現状

- ①入学者受入れ方針を明確に示している。＜根拠資料＞カレッジガイド P 11、P 38、平成 31 年度学生募集要項 P 1

②入学者受入れ方針は学習成果に対応しており、学生募集要項に明確に示している。＜根拠資料＞学生募集要項P1

③その他のチェックポイントは、入試広報センターが中心となって適切に実施している。
＜根拠資料＞入試広報課で集約管理

(2) 課題

①本科生は、ほぼ全員が管理栄養士および学位取得を目的に入学してくるので、アドミッションポリシーにマッチした入学生を確保できている。

(3) 次年度の実施計画

①オープンキャンパスや入試説明会で、受験生への周知を図る。

②学生に協力を得て記載内容を点検し、必要があれば見直しを図る。

13. 明確な学習成果

(1) 現状

①学科の学習成果は明確に示している。Webシラバスで各科目において学修成果別評価基準(ルーブリック)を記載して、学習成果の具体化及び測定可能化を図っている。

＜根拠資料＞Webシラバス

(2) 課題

①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。

(3) 次年度の実施計画

①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」で良いと思われる記載事例を積極的に紹介し、改善につなげる。

14. 学習成果を測定する仕組み

(1) 現状

①教務部でWebシラバスシステムを管理しており、学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。＜根拠資料＞教務部で集約管理

②本科単独で卒業時アンケート調査をしており、毎年、教育課程懇談会等でその結果を発表している。＜根拠資料＞卒業時アンケート

(2) 課題

①授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

(3) 今年度の実施計画

①教務部と協議してアンケートの方法を見直し、回答率が上がる方策を考える。

15. 学習成果を可視化する指標

(1) 現状

①就職支援センターで資格取得率や専門職就職率等を調査し、公表している。＜根拠資料＞

料>第56回卒業式次第

②教務部で「授業アンケート」の結果を公表している。<根拠資料>Webシラバス

(2) 課題

①授業アンケートの項目が多いために回答しない学生がおり、アンケート項目の見直しが必要である。

(3) 今年度の実施計画

①教務部と協議してアンケート項目を見直し、回答率が上がる方策を考える。

16. 卒業後評価への取り組み

(1) 現状

①学科教員が毎年5月前後に卒業生の就職先を訪問して評価を聴取し、学習成果の点検に活用している。<根拠資料>訪問記録は就職支援センターで集約保管

(2) 課題

①訪問時期が早いため、適正な評価ができず評価が不十分な場合もあるが、卒業生の様子を確認するためにもこの時期での実施が必要である。

(3) 今年度の実施計画

①就職先訪問を継続し、各施設で卒業生の状況を聴取する。
②聴取した評価内容をまとめ、専攻科内で情報共有を図る。

17. 教育資源の有効活用

(1) 現状

①教員は学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。Webシラバスシステムを利用して成績や授業アンケートを分析し、授業改善レポート等を作成して授業改善を心掛けている。<根拠資料>Webシラバス
②教室内プロジェクター設備を有効活用して、授業の改善や臨地実習報告会、特別研究発表会等に取り組んでいる。
③学内コンピューターを活用して、栄養計算や統計処理等を実施している。

(2) 課題

①学内LAN環境が不十分であり、授業で使用する際にLAN回線の混雑が恒常化している。

(3) 今年度の実施計画

①学内LAN環境の充実が必要であるが、かなり高額のコストがかかるため、対策に苦慮している。

18. 学習支援

(1) 現状

①入学手続き者に対し、授業で用いるパソコンのセットアップ等を入学前に行い、円滑

な学習支援を行える準備を行っている。

- ②毎週実施するホームルームにおいて、担任より学習の動機づけに焦点を合わせた学習の方法をガイダンスしている。
- ③学習成果の獲得に向けて「学生生活のしおり」などを作成し配布している。また、Webシラバスシステムを利用して、学生が自分の学習成果をレーダーチャート等で可視化して分かるようにして学習支援の整備を図っている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ④学習成果の獲得に向けて、各教員で小テスト等の工夫をしている。それでもまだ基礎学力が不足する学生に対しては、各授業担当者が適宜指導を行っている。
- ⑤学習上の悩みなどを持つ学生に対しては、担任が健康支援センターと連携して支援する体制をとっている。
- ⑥Webシラバスシステムを利用することで、学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。＜根拠資料＞Webシラバス

(2) 課題

- ①わずかではあるが学力に難のある学生がいる。

(3) 今年度の実施計画

- ①学力に難のある学生に対しては個別指導を行う。

19. 生活支援

(1) 現状

- ①学生部と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。
＜根拠資料＞学生部で集約
- ②学生ホールで開催されている“ちょっこおいでまこども食堂”や児童福祉施設で、専門性をいかした食育指導や保護者相談活動のボランティアに積極的に参加している。
＜根拠資料＞本学のブログ記事

(2) 課題

- ①カウンセリングや経済的な支援を必要とする学生が増えてきている。
- ②平成31年度入学生で1名の退学者がいた。

(3) 今年度の実施計画

- ①学生部との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。

20. 進路支援

(1) 現状

- ①就職支援センターとの連携により、積極的に進路支援を行っている。
＜根拠資料＞就職支援センターで集約管理

(2) 課題

- ①研究生制度の導入により、学生の希望を把握しつつ一層きめ細かい指導が必要になっ

てきている。

(3) 今年度の実施計画

- ①担任と特別研究の担当教員、就職支援委員との連携を密にして、個別指導の必要な学生への指導を充実させる。

21. 健康支援

(1) 現状

- ①学生部・保健室との連携により、早期からの課題発見に努め、対応を検討し支援している。
- ②学科内では、入学時から担任が適時、面談やアンケートを行って問題を把握し、適時、保護者とともに心身の健康をサポートしている。経過は「学生指導の記録シート」に記載している。＜根拠資料＞学生指導の経過シート
- ③体調の不安は早期に把握し対応することが大切なので、遅刻や欠席の場合は速やかに学科や担任が連絡を受け、状況把握に努めている。

(2) 課題

- ①1年実務の期間に免疫力が低下し、抗体価が減少している学生が多くなってきている。結果を把握し、学生生活や臨地実習に支障がないように早期から呼びかけが必要である。
- ②深夜までのアルバイトによって学業に支障をきたす学生への適切な指導支援が必要である。

(3) 今年度の実施計画

- ①学生部および新設される健康支援センターと連携を密にして、健康課題の早期把握と対応に努め、個別指導の必要な学生への指導を充実させる。
- ②着実に授業を受け、学力・技術・人間力を身につけて、社会で活動することへの不安をやわらげ、学位取得と管理栄養士国家試験の合格を目標として指導に当たる。

(22～25の点検項目は他部署で記載のため省略)

26. 教育研究活動

(1) 現状

- ①専任教員は、専攻科の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。＜根拠資料＞学生指導の経過シート、今年度の研究業績
- ②他のチェックポイントについては、教務部を中心として十分に取り組んでいる。
＜根拠資料＞教務部で集約
- ③教員は少人数制で学生に関わり、全ての学生が学会発表を行えるよう指導している。

(2) 課題

- ①特別研究の指導に膨大な時間を要する。その一方でゼミごとに、所属する学生数に差があり、負担が偏っている。
- ②会議が書類作成の業務が増大する傾向にあり、教育研究活動にかける時間が確保でき

ないことがある。

(3) 今年度の実施計画

- ①学生指導の経過シートを活用し、情報共有化を図る。
- ②教育研究活動の時間を確保するため、科内会議の時間短縮を目指す。

(27～38の点検項目は他部署で記載のため省略)

